

2023 年度 A SEED JAPAN 事業計画（案）

1. 経営方針

2023 年度は 2021 年度からの「3 カ年方針（※）」の 3 年目にあたる年になります。2 年目となる 2022 年度は、当時課題として挙がっていた点について、一定程度前進することができました。

（※）3 カ年方針：2021 年度会員総会で指摘された「活動体の不活性化・若者活動会員の不在・赤字体質」を、いまある資産で持ちこたえられる 3 年の間に改善するとする方針。会員総会で決議されたものではないが、A SEED JAPAN 理事会としてはこの方針に沿って運営を行っています。

2023 年度は、2022 年度をかけてターゲットに働きかける準備をしてきた ESG ウォッチプロジェクトに組織のリソースを集約して活動を展開します。取得した 2 件の助成金を活用し、ファクト調査・提言・啓発キャンペーンを行います。共に活動を担うメンバーやインターンを募集し、対外的な活動を推進していくとともに、社会への発信に注力します。

財政改善に向けた取り組みとして、2023 年度は事務局業務の内、必要な管理コストを見極めるために有給スタッフを雇用せず理事の業務にすることとしました。まずは単年度赤字を可能な限り食い止め、中期的な財政改善を行うための計画を検討していきます。今年度理事会は、「2024 年度までにめざす姿」として引き続き以下の 3 点を掲げて取り組んでいきます。

①活動体の活性化

以前のように、様々なチーム・プロジェクトがそれぞれ活気をもって社会課題解決をめざしている

②若者活動会員の増加

国際“青年”環境 NGO として、重要な存在である未来世代（若者・青年）メンバーが活躍している

③財政改善

コスト削減はもちろん、助成金等の活用やさらなる会員増加、事業収入の増加等新たな可能性を検討している

2. 事業

2022 年度から 3 つのプロジェクトの運営に変更がありました。

- ・エコ貯金ラボ：2022 年度理事を務めた田川の退任に伴い、A SEED JAPAN から独立してプロジェクトを実施します。
- ・ハブ 30：2023 年度は事務局運営体制の変更に伴い、プロジェクト化せず事務局内にて可能な範囲で活動します。
- ・生きる働く：2023 年度は事務局運営体制の変更に伴い、プロジェクト化せず事務局内にて可能な範囲で活動します。

2023 年度は ESG ウォッチプロジェクトのみが活動することになります。

ESG ウォッチプロジェクト

活動概要

市民一人ひとりが ESG の重要性とその本質を理解し、環境・社会問題や政治・経済（金融）についての知識を持つ。そして、当事者意識を持って資産運用会社・個人投資家などの ESG 金融（投資）（※）に関するステークホルダーに働きかけ、持続可能で公正な投資を実現する。

（※）ESG 金融（投資）とは、社会や企業活動の持続可能性には、企業への融資や投資に際して、環境（E）・社会（S）・ガバナンス（G）に配慮することが大事であるという考え方

2023 年度 Objective : プロジェクトの目標

1. 【対市民】一人ひとりが ESG ウォッシュを見抜くための知識を持っている
2. 【対金融セクター】ESG ウォッシュが疑われる投資信託を運用する資産運用会社の運用が改善される

2023 年度 Key Results : 達成指標と計画

1. 【対市民】

事業計画

- i) 勉強会（主催・共催・ゲスト参加問わない）を実施する。
 - i) -1 ESG についての理解と大規模輸入木質バイオマス発電に関する政策、企業活動についての理解を深めるための勉強会を実施する（3回）。
 - i) -2 年度の後半に、1年間の活動の総括セミナー（勉強会）を実施する。
 - i) -3 他団体主催の活動紹介イベント、勉強会に共催・参加する。
- ii) 2022 年度に引き続き、インフォメーションシート策定過程において「若者の ESG ウォッシュに対する意識調査」を実施する。
 - ii) -1 「意識調査」を勉強会やイベント参加者、協力する他団体（国内・海外）や加盟する NGO ネットワーク経由でより多くの回答を集め、結果をまとめ、公表する（具体的取り組みは iii を参照）。
 - ii) -2 海外における類似の意識調査を探し、研究する。類似の物が無ければ、「若者の ESG ウォッシュに対する意識調査」を英訳して、海外の若者に対しても実施する。
- iii) ESG ウォッシュの現状と具体例をまとめた「インフォメーションシート（バージョン 1）」、ESG ウォッシュを防ぐための心構え「ESG ウォッチ宣言（バージョン 1）」、「若者の ESG ウォッシュに対する意識調査」の結果を短くまとめた「アクション・ガイド」を作成し、「ESG ウォッチ宣言（バージョン 1）」をウェブサイトや SNS で拡散する。拡散のための取り組みとして以下を実施
 - iii) -1 ESG ウォッチの特設キャンペーンサイトを開設・運営する。
 - iii) -2 キャンペーンサイトに記事を投稿する「ESG ウォッチライター」を育成する。

iii) -3 計4回(前述)の勉強会を開催する。

iii) -4 Instagramの投稿を月2回行う。

※「アクション・ガイド」は、ESGウォッシュの問題を認識し、見抜き回避し、無くすための具体的な行動を促すものとする。

アウトプット

i) 全ての勉強会・イベント参加者が、ESGの重要性やその原則についての理解、バイオマス発電事業に関する政策・企業活動についての理解を深める(アンケートにより計測)。

ii) 2022年度分と合わせて「若者のESGウォッシュに対する意識調査」の回答者数1,000人を集める。

iii) 「アクション・ガイド」を作成し、宣言の賛同者400人(内訳は下記)を集める。

iii) -1 公式ウェブサイト及びESGウォッチ特設サイト経由で、150人が賛同する。

iii) -2 「ESGウォッチライター」を5人育成し、ライター経由で100人が賛同する。

iii) -2 勉強会や活動紹介イベントなど(主催・共催問わない)の参加者年間累計100人を旨す。勉強会参加者の内50人が賛同する。

iii) -3 Instagramフォロワーを200人に増やし、100人が賛同する。

2.【対金融】

事業計画

i) 「インフォメーションシート(バージョン1)」「ESGウォッチ宣言(バージョン1)」「若者のESGウォッシュに対する意識調査」「アクション・ガイド」について、プレスリリースで発信する(年2回)

ii) ターゲットにする投資信託の運用会社に「インフォメーションシート(バージョン1)」「若者のESGウォッシュに対する意識調査」と公開質問状を送り、ESGウォッシュ全般や大規模輸入木質バイオマス発電事業に関する情報提供・対話を実施する

※2023年度は以下の3つの投資信託をターゲットにする。

- ・野村アセットマネジメント「脱炭素ジャパン」
- ・東京海上アセットマネジメント「再生可能エネルギー・インカム戦略ファンド」
- ・アムンディ「環境・気候変動対策ファンド」

アウトプット

i) プレスリリースした内容がメディアに掲載される。

ii) 最低1つの運用会社がESGウォッシュ全般や大規模輸入木質バイオマス発電事業についての見解・方針・投資状況を明らかにし、改善の意志を示す。

・担当理事：かつ

・メンバー：まゆっち、もっぴー、にっしー、かほ、こうへい、はらこ、ゆかりん、みつもと、はまこう、おーちゃん

3. 管理

1. 事務局運営方針

- ・2023年度の事務局業務（主に管理業務）は、有給スタッフである鈴嶋と、理事による作業部会（大坂、濱田、三本）の4人で行います。また、活動メンバーやインターン募集を強化することで、新規活動メンバーの獲得を目指します。
- ・週1回の事務局会議を基本に、各自の業務の進捗状況、確認・相談を行い進めていきます。
- ・新規で獲得した助成金の進捗管理、プロジェクトの運営・実行を進めていきます。

2. 事務局内プロジェクトについて

- ・活動メンバーから起案された「ソーシャル・ダイアログ」を企画・実施します。
- ・OGOBの知見を活かすことを目的にしたハブ30の事業を事務局の事業として計画を検討します。
- ・生きる働く事業の実施についても事務局内で検討します。

3. 会員管理方法の検討について（※）

- ・「一般会員」と「SPRING会員」の会員期間を事業年度の「4月から3月」に統一して運用することで、「事務局から会員の皆さまへの定期的なご連絡を増やすこと」「会員の皆さまのより安定したA SEED JAPANへの参画環境を整えること」の実現を目指します。

（※）資料2-3をご参照ください。

以上